



山形県感染症発生動向調査

平成30年第13週(3月26日～4月1日)

山形県感染症情報センター(山形県衛生研究所)
 TEL.023-627-1109, FAX023-641-7486
 URL <http://www.eiken.yamagata.yamagata.jp/>
 2018年4月4日 発行

<定点把握感染症>

※表中の数値 上段:報告数 下段:定点当たり報告数

※定点当たり報告数が、▲:2週連続増加、△:今週増加、▼:2週連続減少、▽:今週減少

※◎:警報レベル

○:注意報レベル

疾患名	全国	山形県			村山地区			最上地区			置賜地区			庄内地区			累積(県) 第1~13週
	第12週	第12週	第13週	増減	第12週	第13週	増減	第12週	第13週	増減	第12週	第13週	増減	第12週	第13週	増減	
インフルエンザ定点 (定点医療機関数)		(48)			(20)			(5)			(10)			(13)			
インフルエンザ	26473 5.35	539 ◎11.23	486 ◎10.13	▼	175 8.75	120 6.00	▼	83 ○16.60	39 7.80	▼	151 ◎15.10	188 ◎18.80	△	130 ◎10.00	139 ◎10.69	△	14878
小児科定点 (定点医療機関数)		(30)			(13)			(3)			(6)			(8)			
RSウイルス感染症	1208 0.38	9 0.30	8 0.27	▽	1 0.08		▼				8 1.33	5 0.83	▽		3 0.38	△	152
咽頭結膜熱	829 0.26	6 0.20	7 0.23	△		6 0.46	△				5 0.83	1 0.17	▽	1 0.13		▼	196
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	7184 2.27	110 3.67	80 2.67	▼	43 3.31	47 3.62	△	3 1.00	1 0.33	▽	48 ◎8.00	20 3.33	▽	16 2.00	12 1.50	▼	1688
感染性胃腸炎	14004 4.43	109 3.63	151 5.03	△	32 2.46	47 3.62	△	12 4.00	21 7.00	▲	24 4.00	24 4.00		41 5.13	59 7.38	△	1704
水痘	944 0.30	13 0.43	7 0.23	▽	9 0.69	3 0.23	▽				1 0.17	4 0.67	△	3 0.38		▽	168
手足口病	417 0.13	10 0.33	1 0.03	▽	9 0.69	1 0.08	▽				1 0.17		▽				204
伝染性紅斑	194 0.06	4 0.13	7 0.23	△	2 0.15	1 0.08	▽				2 0.33	6 1.00	△				57
突発性発しん	1161 0.37	19 0.63	11 0.37	▽	5 0.38	3 0.23	▼				7 1.17	7 1.17		7 0.88	1 0.13	▽	168
ヘルパンギーナ	37 0.01	2 0.07	1 0.03	▼	1 0.08	1 0.08					1 0.17		▽				25
流行性耳下腺炎	382 0.12	1 0.03	2 0.07	△		1 0.08	△					1 0.17	△	1 0.13		▽	37
眼科定点 (定点医療機関数)		(8)			(4)			(1)			(1)			(2)			
急性出血性結膜炎	10 0.01																
流行性角結膜炎	371 0.53																14
基幹定点 (定点医療機関数)		(10)			(4)			(1)			(2)			(3)			
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	206 0.43	2 0.20	1 0.10	▽	1 0.25	1 0.25								1 0.33		▽	11
クラミジア肺炎	5 0.01																
マイコプラズマ肺炎	56 0.12	1 0.10	2 0.20	△	1 0.25	1 0.25			1 1.00	△							40
細菌性髄膜炎	4 0.01																4
無菌性髄膜炎	7 0.01																2

<全数把握感染症>

疾患名	類型	報告数				備考
		村山	最上	置賜	庄内	
結核	患者			1		
	無症状病原体保有者			1		
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	患者	1				
百日咳	患者	2		1		ワクチン接種歴:4回 2人、不明 1件。小児 2人、成人 1人。

<通信欄>

※トピックスで、インフルエンザ、風しんについて掲載しています。

※定点把握感染症のグラフ・全数把握感染症の年間累積数については別紙(グラフページ)をご覧ください。

<定点把握感染症 報告患者数 年齢別>

インフルエンザ定点	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	
インフルエンザ		5	20	27	45	43	40	44	20	24	18	45	17	11	
	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～									合計
	20	21	22	31	15	18									486
小児科定点	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳～	合計
RSウイルス感染症	1	1	3	1		1				1					8
咽頭結膜熱			3	2	1		1								7
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			5	9	15	10	5	9	8	6	3	8	2		80
感染性胃腸炎		3	24	27	20	14	11	13	6	7	3	19		4	151
水痘				2	2		1					2			7
手足口病				1											1
伝染性紅斑							3	4							7
突発性発しん		4	7												11
ヘルパンギーナ						1									1
流行性耳下腺炎						1						1			2

<平成30年2月 月報>

2018年3月22日 発行

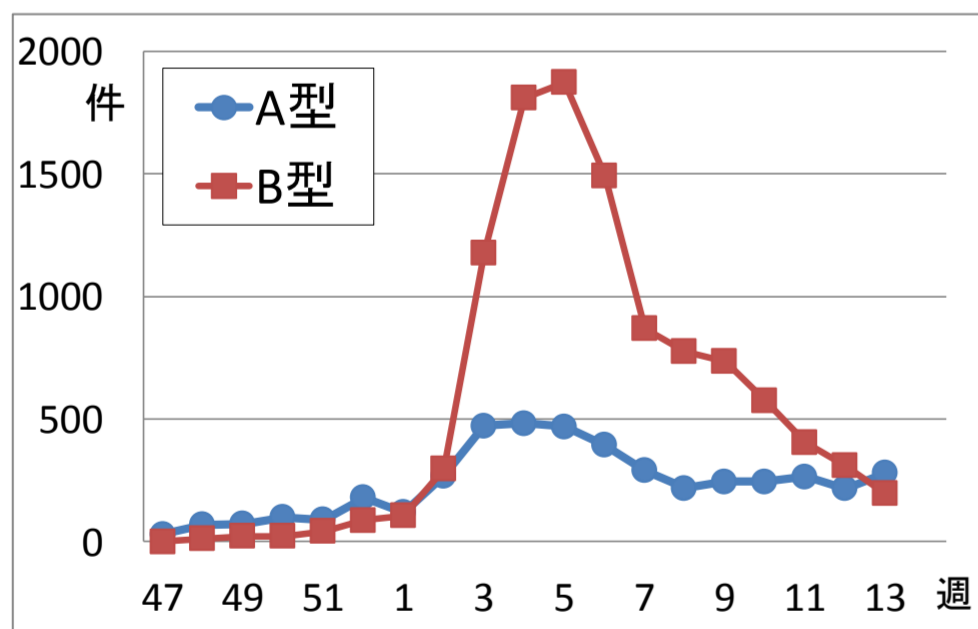
疾患名	山形県		村山地区		最上地区		置賜地区		庄内地区		累積(県) 1～2月
	1月	2月	1月	2月	1月	2月	1月	2月	1月	2月	
STD定点 (定点医療機関数)	(10)		(4)		(1)		(2)		(3)		
性器クラミジア感染症	報告数 19	19	5	9	9	7	1		4	3	38
	定点当り 1.90	1.90	1.25	2.25	9.00	7.00	0.50		1.33	1.00	
性器ヘルペスウイルス感染症	報告数 9	11	2	1		4	3	3	4	3	20
	定点当り 0.90	1.10	0.50	0.25		4.00	1.50	1.50	1.33	1.00	
尖圭コンジローマ	報告数 3	2	1	1					2	1	5
	定点当り 0.30	0.20	0.25	0.25					0.67	0.33	
淋菌感染症	報告数 3		2						1		3
	定点当り 0.30		0.50						0.33		
基幹定点 (定点医療機関数)	(10)		(4)		(1)		(2)		(3)		
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	報告数 3	6			1		2	3	3		9
	定点当り 0.30	0.60			1.00		1.00	1.00	1.00	1.00	
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	報告数 20	13	6	5	2		3	2	9	6	33
	定点当り 2.00	1.30	1.50	1.25	2.00		1.50	1.00	3.00	2.00	
薬剤耐性緑膿菌感染症	報告数										
	定点当り										

<トピックス>

【インフルエンザ情報】

第13週の県全体の定点当たり報告数は10.13で、警報レベルが継続しています。地区別では、置賜・庄内地区が警報レベルとなっています。

1 迅速診断キットによるインフルエンザウイルスの陽性件数(第13週)



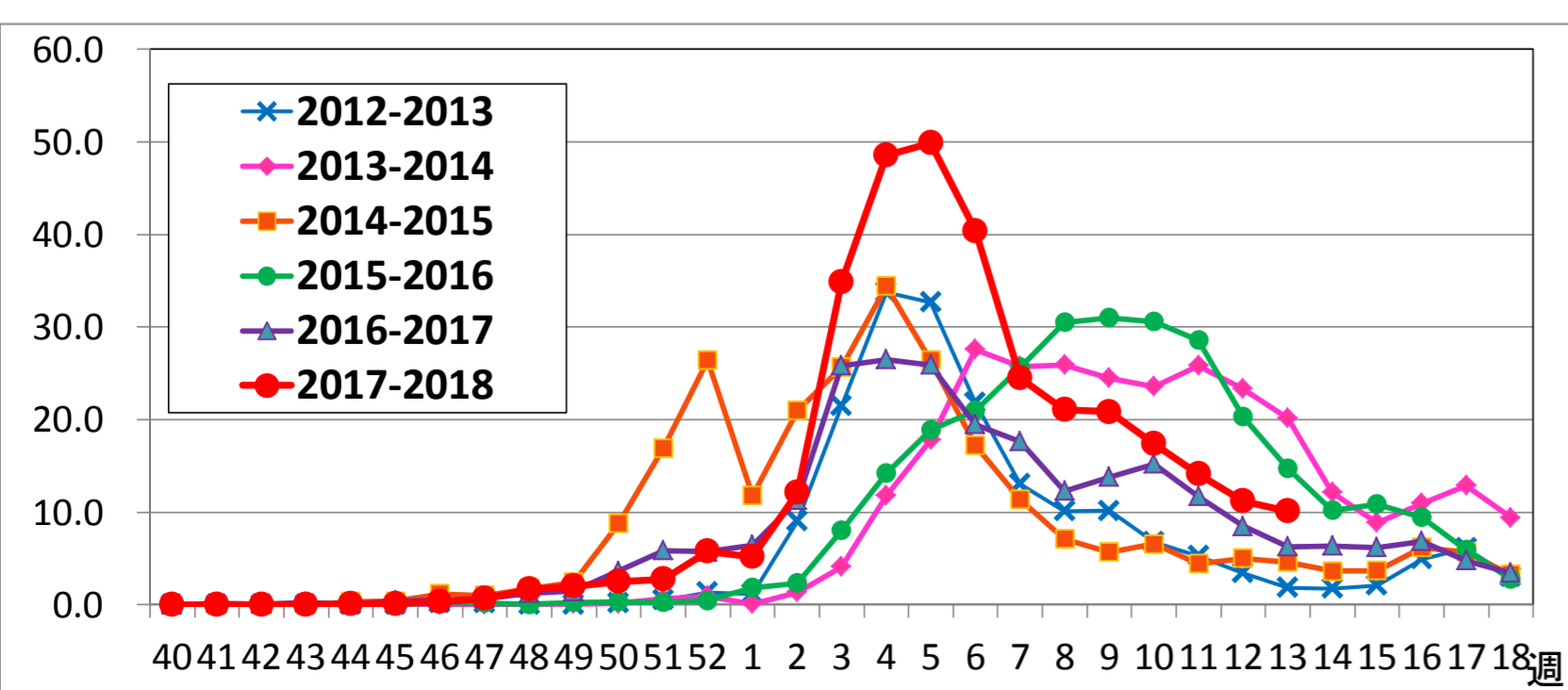
	A型	B型
村山	68	50
最上	10	29
置賜	149	40
庄内	53	78
計	280	197

※A・B重複感染:1件、不明:10件

2 集団発生状況(県健康福祉企画課まとめ 第13週)

	村山	最上	置賜	庄内	合計
幼稚園・保育所	2		1	1	4
福祉施設				1	1
合計	1	0	1	2	5

3 定点あたり報告数の推移(過去5シーズンとの比較)

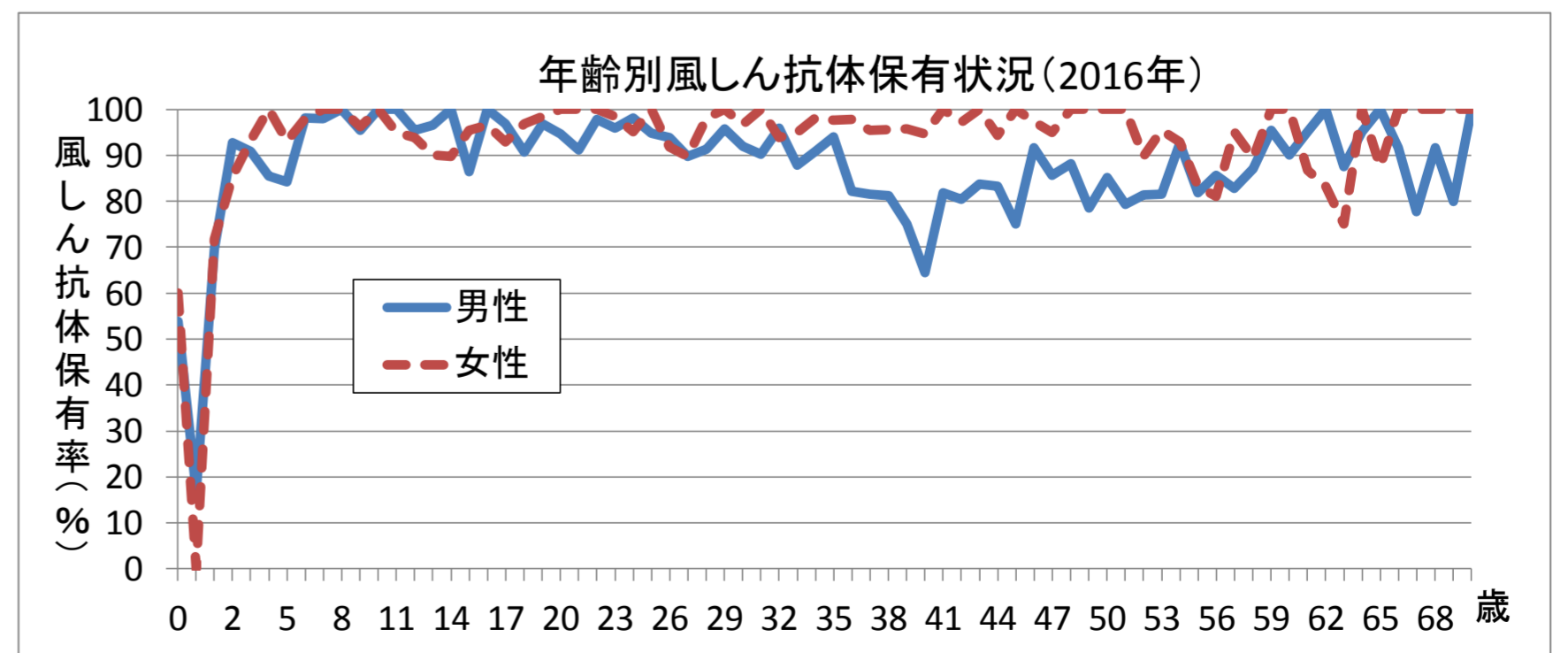


ストップ! 風しん



風しんは、風しんウイルスによって引き起こされる急性の発疹性感染症です。飛沫感染でヒトからヒトへ伝播し、発熱や発疹、リンパ節の腫れなどの症状があらわれます。一般的に症状は軽症ですが、まれに重症化することもあります。風しんに感受性のある妊娠20週ころまでの妊婦が風しんウイルスに感染すると、胎児に伝播することがあり、心疾患、白内障、難聴などの症状を示す先天性風しん症候群を発症する可能性があります。日本では、風しんの報告数は減少傾向にありますが、2012-13年には全国的な流行が発生し、全国で45人の先天性風しん症候群児が生まれました。

日本では早期に先天性風しん症候群をなくすこと2020年までに風しんを排除することを目標としています。風しんワクチンの接種率が向上し、若い世代はほとんどの方が風しん抗体を保有していますが、30-50歳代の男性は抗体を持たない方も多い状況です。風しん抗体をお持ちでない方、特に妊娠を望まれている方やそのご家族はぜひ予防接種を受けてください(自治体で費用を助成している場合もありますので、お住まいの自治体へお問い合わせください)。



(2016年感染症流行予測調査より)